

謹啓

初冬の候、御一統様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、今回善光寺季刊誌『成寿』第三六号をお届けいたします。

この号は、特に昨年暮れに遷化致しました当山二世中興大圓武志大和尚の追悼号と致しました。一月四日・五日に行われました通夜、葬儀のご報告を中心に、二月十二日に行われました四十九日法要並びに、当寺開山榎庵白純大和尚正当二十七回忌法要等のご報告をさせて頂きました。ご高覧頂ければ幸いです。

皆様のご健勝をお祈り申し上げますと共に、今後とも尚一層の御法愛、御教導賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

平成十七年十二月吉日

横浜善光寺 住職 黒田博志 合掌

カラ	―	■特集1 故黒田武志老師 大夜・本葬儀	1
特	集	●追悼 黒田武志老師	18
カラ	―	■黒田武志老師ありし日々の姿	39
		●お悔やみの言葉	47
		●遺稿 おもいやりの心	60
		●中興二世 大圓武志大和尚の足跡	71
カラ	―	■特集2 白純老師二十七回忌	73
特	集	●白純和尚の人と功績 大田山光真寺を訪ねて	77
連	載	●くらしの中で読む『正法眼蔵』面授の巻・その十	84
読	物	●秋彼岸法会・特別法話『無常観』	92
		●『留学僧育英会』の方向性について	110
		●ニュース・アラカルト	111

●表紙説明

伊藤喜三郎（三喜庵）先生が、大圓武志大和尚の修行僧時代を描いたものである。左に伊藤先生の大和尚を描いたスケッチを載せた。



巻頭言

善光寺住職 黒田博志

季刊誌「成寿」三十六号漸く発刊に至り、心よりただただ感謝御礼申し上げます。

まことに光陰矢のごとしと申しますが、師父大圓武志大和尚遷化致しましてより早や一周忌を迎えます。先年の一大事。当山にとりましては不意に訪れた不測の事態。もしもの備えなど全くもちあわせておりませんでした。

あれから一年、この間無我の境地、学ばずとも、不知不識、唯夢中に刻々走ってまいりました。いま私は師父大圓大和尚の遺志を頭上に戴き敬い慎しみつつ、

巻頭言に尽くしております。大事なもの、尊いものを失って、はじめて知る存在の大きさ、師父大圓大和尚の偉大さです。しかし私が気づくには、あまりにも遅すぎております。

師父の存命中は、その恩愛の深さになれて、大事を怠っております。

折にふれ、「博志、なにかもみ仏さまにお任せすればいいのだよ」といいながら、まかせないで、自らの手を尽くし、すっかり修めてしまっていたわが師父。やっぱり凄かったと、いまさらながら遠きを追う毎日です。

過ぎて、今年二月四日、当山開山榎庵白純大和尚の二十七回忌でした。師父は早くからこの号をもって、目に見えぬ大和尚の尊いご恩に報いるべく、特別追悼号を企画し発行の準備をしておりました。しかしいまとなっては叶わぬ師父のご遺志に従い私は些かでもこの「成寿」に合わせ惜別の念をこめ回忌追悼させていただきます。

善光寺も、やすらぎの郷も、「成寿」もお蔭をもちまして、今日大圓和尚の意に

添うて常住坐臥、平穩に導かれております。

師父大圓和尚が開創以来確固とした目標をもち、終生変えなかった三つの理念。

- (一) 宗祖を通して釈尊に還る
- (二) 仏道を通して世界の安心、平和、幸福に寄与する
- (三) 利他の思想で発願利生

この信念、この信条、私もまた師父の心を心として、未熟でありましても、一生懸命尽くして参りたいと誓願しております。

どうぞ横浜善光寺ご檀家、ご関係者の方々師父に倍旧のご導愛ご叡智いただきますよう、「成寿」発行に鑑みご挨拶申し上げます。